

自己評価					学校関係者評価	
学校運営計画(4月)				評価(総合)		
学校運営方針		(1) 校訓「誠・敬・愛」 誠実で、礼儀正しく、自他を尊重する (2) 生徒のやる気を応援し、個性を伸ばす西田川高校!			A	
昨年度の成果と課題		令和5年度重点目標				
[成果] フレックス型単位制高校が開課程3年目となり、これまでの西田川高校の文化を継承しつつ、「心のオアシス」として地域に信頼され愛されるとともに、校内に活気が満ちてきた。		(1) わかる授業の実践と積極的な授業改善による確かな学力の伸長	具体的目標	・講座出席率8割、単位修得率8割の実現及びカリキュラム・マネジメントの充実 ・観点別評価の充実により、欠席・遅刻・早退の減少を図り、授業を大切にすることを養う ・一人年1回の授業公開(主体的な学び:導入、見通し、振り返りの工夫)と授業規律の向上		
[課題] (1) 今年度、定時制単位制単独としての学校運営と教育活動の創造 (2) フレックス型単位制の良さを生かした教育活動安定の充実を図る。 (3) 本校職員としての連携を維持・強化し、チーム化を図る。 (4) 地域社会に開かれた教育課程づくり。		(2) 未来に活躍できる生徒の育成		・生徒一人ひとりに合った生徒支援を行い、特別な配慮が必要な生徒へ適切な生徒支援や積極的で柔軟な教育相談の実施 ・社会に必要な正しい言葉遣いや素直な心を持ち周りに配慮できる生徒の育成 ・基本的な生活習慣を整え、授業を大切にすること。 ・食育の充実と給食喫食の向上		
		(3) 自己理解を深め、将来ビジョンを描くためのキャリア教育の充実		・進路意識の育成 ・自己選択能力と自己決定能力の育成 ・キャリア・ガイダンスの充実 ・担任による個人面談の実施、充実 ・教員の受講ガイダンス能力の向上		
		(4) 地域社会に開かれた教育課程づくり		・広報活動の推進(広報物、Instagram、学校ホームページの充実) ・保護者教師会、同窓会、地域との連携強化		
		(5) 自他が認められ、一人ひとりの居場所が尊重される「心のオアシス」づくり		・言葉の環境を向上させるためのプロジェクト実施 ・人権学習の見直し(全体計画・年間計画・内容) ・人権・同和教育推進委員会の充実(生徒の情報交換と具体的方策等)		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題		
教務部	・確かな学力の育成と授業規律の向上	わかる授業の実践により、基礎・基本の徹底・充実。 観点別評価を充実させ、授業に取り組む姿勢の醸成。 授業見学月間並びに授業アンケート等の実施・教員への還元	A A B	A	・観点別評価の充実の基、教科の目標と評価方法の一致を目指し「学習評価確認週間」を設定・実施することで、生徒の学ぶ意欲を向上させる。 ・講座における指導内容の差異がないよう、教科間で統一した指導ができるよう取り組み、どのような力が付くのか明確にさせることで、分かる授業の実践に繋げていきたい。	
	・授業を大切にすることを養う	講座出席率8割、単位修得率8割の実現。 欠席・遅刻・早退者への細やかな指導の充実。 時間厳守、始業・終業時の挨拶指導、丁寧な言語使いの指導	B A A			
	・教職員の授業改善	観点別評価の導入による指導と評価の一体化。 ICT等を活用し生徒がわかる授業、達成感のある授業の実践。	B B			
生徒部	・挨拶の徹底と場に応じた言葉遣いを身に着けさせる	授業や学校生活で言葉遣いを大切にする。 指導無視や暴言は許さない指導を行う。 教員側から積極的な挨拶を心掛ける。	B A B	A	・細かい「校則」がない分、各授業や、あらゆる教育活動の場で、最低限のルールの確認や実践の必要性を説諭していけるよう取り組む。 ・全職員による「挨拶励行」を徹底できるように、具体的な方法を検討したい。 ・引き続き、気になる生徒の情報共有や、SC、SSWとの連携を図りたい。 ・令和5年度の実績状況の反省点を生かし、健康診断の計画・実施を行う。 ・特別な配慮が必要な生徒への支援のために、職員間の情報共有をしっかりと行う。 ・当番清掃は引き続き行うようにする。当番の人数等バランスよく振り分ける。	
	・安心安全な学校作りに努める。	定期的に学校生活アンケートなどに取り組む。 担任面談・スクールカウンセリングを行う。 授業を大切にすること。	A A B			
	・心身の健康の保持増進のための適切な健康管理と保健指導を実施する。	「自らの健康は自ら守る」保健指導・保健室経営を行う。 特別な配慮が必要な生徒へ適切な支援を行う。 食育の充実、給食喫食率の向上を図る。	A A B			
	・快適で安全な学校生活のための校内の環境美化活動、感染症対策に努める。	当番生徒を中心とした清掃活動を実施する。 ゴミの分別を徹底する。 適切な感染症対策を推進する。	A A B			
ガイダンス部	・キャリア教育の充実(進路探究の深化)	「総合的な探究の時間」と教科授業等の教育活動を有機的につなぐ。 生活体験作文を通して、生徒に自己の在り方や生き方を見つめさせる。 「高大連携事業」により、生徒の自己実現や進学に対する意欲を高める。	A B B	A	・キャリア教育については、体系的な取り組みが継続的に行えるように、再構築をしていく。 ・「高大連携事業」への積極的な参加の促進を図る ・受講ガイダンス・登録のさらなる充実を図り、体系的な取り組みの再構築をし、教員のキャリアカウンセリング能力の向上のための取り組みを行っている。	
	・受講ガイダンス・登録の充実	教員が生徒と信頼関係をつくり、個人面談を充実したものにする。	A			
		教育課程を理解したうえで、キャリアカウンセリングを行う。	B			
		「総合的な探究の時間」やホームルーム活動で生徒に自分を見つめさせる。	A			
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会から意見					
A	○生徒の意欲を引き出す授業改善は教師の自己評価より高く感じる。教員個々の特性を活かした魅力ある授業づくりに期待したい。 ○授業の実践において、個に応じた指導や対応への工夫が重ねられることで出席や単位修得率の向上が期待されると考えます。					
A	○挨拶や言葉遣いはとても大切な力であると考えている。フレックス制ならではの良さとも言える様々な人と関わる機会を活かし、これまで以上に生徒や教職員が挨拶や言葉遣いを大切にした関わりを行っていくことで更なるコミュニケーション能力の向上が期待される。 ○地域の評価も高く、対外的にも学校生活の様子を発信されており、評価が高い。 ○式典の規律が取れた行動を見る限り、個人の主張と団体でとるべき行動の使い分けが巧く取れている。					
A	○学校の立地から後藤寺主体に探究活動が行われており、過疎化が進む後藤寺の活性化は生徒にはハードルが高いながらに教師、生徒ともによくやっている。グローバルな世界に向けた人材育成を図り、今後日本を牽引する人材教育ができる学校を期待する。					

企画広報部	・学校行事をはじめ、学校刊行物等、校務運営の円滑化に寄与する。 ・パンフレットやSNSを活用した効果的な広報を行う。 ・保護者教師会や同窓会と連携し、教育活動の充実を図る。	関係分掌と連携して、学校行事の円滑化を図る。	A	A	A	本年度、フレックス型単位制として初の卒業生を送り出す。3年前は、パンフレット、ホームページ等に顔や声を出すことに対して消極的な生徒ばかりだったが、この3年間に自信をつけ自分の進路を切り開く体験を通して、卒業生年次生はとてまたくましく成長した。次年度以降のパンフレットやホームページには、西田川高校の「何が」「どのように」自分たちの力となったのか等、生徒の声を拾いながら作成に努めたい。	A	○SNSの発信だけでなく、広報誌やPTA新聞など年齢や地域に偏らない情報発信とその活用ができており、今後も更なる発展を期待する。 ○学校に行かずとも生徒の活躍がSNS頭で見ることができると高い評価につながっている。
		学校発刊物の作成をする。（「学校要覧」「生活ガイドブック」）	A					
		交誼会の充実、職場環境の整備を行う。	A					
		計画的な刊行物の発行を行う。	A					
人権・同和教育推進／図書研修部	・人権が尊重される学校・学級づくりの推進	相手を尊重したコミュニケーションを、全職員・全生徒で実践し、良好な人間関係の基礎を築く。	A	A	A	・職員間、関係機関との連携を図り、組織的な取り組みが実施できた。 ・長欠生徒の具体的状況をもとに課題解決の方向性を示すことができた。 ・指導案の計画的作成と人権学習の事前学習会が充実できた。 ・人権学習の感想等から生徒の人権意識の向上が見られる。 ・実践交流会のレポート内容の質が今年も高かった。質の高い校内実践交流会を実施することができた。	A	○安心安全な関係づくりや相手の良さを見つけていく関わりなどお互いを大切に思い合うことこそが人権教育へとつながっており、そのような学校風土が醸成されている。 ○徐々に西田川高校の生活に慣れて、良い意味で学校に染まっているのではないか。 ○近隣地域に評判もよく、より地域に溶け込んだ西田川高校になっている。
		授業や学校行事、部活動等の生徒作品展等を通して、生徒一人ひとりの個性を尊重し、相互に認め合う集団づくりに取り組む。	A					
		人権に関する掲示物を設置し、生徒が人権について自ら考える機会を設ける。	A					
	・人権・同和教育推進体制の充実	人権教育全体計画を作成し全教科・全領域で人権教育が実施できる体制を作る。	A	A	A	・単位制の時間制で、研究授業や校内研修の計画実施がうまくできなかったため、今後は工夫が必要である。 ・図書館の蔵書の充実を図るとともに、図書館がすべての生徒の学習の場面として活用できるよう提案を行う。	A	
		人権・同和教育推進委員会を定期的に開催し、生徒情報の共有化を図り、生徒の修学（就学）を全職員で支援する体制を作る。	A					
		適時、校内職員研修会の実施し、校外研修への参加を促すことで本校職員の知的理解を深め、人権感覚を磨く体制をつくる。	B					
		授業見学月間を設定し研究授業や公開授業を行う。	A					
	・新しい学習観に基づいた力を育むための授業改善の推進	研究協議などを通して、互いの授業を改善していく。	A	A	A			
		各種校外研修への積極的な参加を推進する。	A					
		校内研修会において、各部との連携を図る。	A					
	・校内職員研修会の企画・運営及び各種研修会への積極的参加の促進	年度総括を含め、研修・研究内容等をまとめる。	A	A	A			
		オリエンテーションを実施し、図書館利用の促進を図る	A					
・図書館の利用や、読書を推進する。	子ども読書の日や、総合的な探究の時間等の読書活動の充実させる	A	A	A				
		A						
新入生年次	・豊かな人間性の育成	状況に応じた適切な言葉遣い・態度を考えさせ社会の一員であることを自覚させる。	A	A	A	今後も、社会性や人間性を身につけられるよう、授業や学校生活の中で生徒一人一人に向きあっていく。いろいろな課題を抱えた生徒の状況を把握できるように、定期的な情報共有をはじめ、いつでも話ができるような雰囲気づくりに努める。 学習意欲の高い生徒を引き上げることで周りの学習意欲も引き上げられるよう、学習の大切さを伝える。	A	○日々の学校生活の中での言葉遣い等について、粘り強い働きかけを続けて頂きたい。 ○得意、不得意を教員と向き合い、学習力の向上と進路を見出す努力を感じた。
		ルールやマナーを守ることの必要性を全ての教育活動をとおして伝える	A					
		生徒と教員の信頼関係を強固にして話し合える環境づくりをする。	A					
	・確かな学力の育成	生徒が授業に集中して臨めるように、授業規律の徹底を図る。	A	A	A			
小人数制の授業の中で個々に応じた授業を展開していく。		A						
在校生年次	・豊かな人間性の醸成	状況に応じた適切な言葉遣い・態度を身につけさせ、社会生活におけるコミュニケーション能力の向上を図る。	A	A	A	学習指導、ガイダンス、生徒指導等のさらなる充実を図り、それぞれ効率的に進めることができるようにする。生徒の状況に応じて、適宜面談等を積極的に設定し、未然に様々な問題を解決したり、進路意識を高めたりする機会を持つ。 また、探究活動をはじめ、様々な学校行事を通じて、人としての在り方やより良い人間関係の構築について生徒に考える機会を与え、自己肯定感を高められるようにする。	A	○生徒の皆さんの“気付き”を大切に して多様な考えに出会う機会を今後も作っていただきたいと考える。 ○探究活動を通して自らも成長する姿が見えたことは高い評価につながる。
		誠実で、礼儀正しく、自他を尊重する力を身につけさせる。	A					
		多様な価値観を受け入れ、相手の立場に立って物事を考えられるようにするために、人権教育を通じて人権の重要性を伝える。	A					
	・確かな学力の育成	学習意欲を引き出す環境を整え、基礎学力の定着と学習意欲の向上を図る。	A	A	A			
		自らの生き方や進路について探究し、希望進路実現に向けて社会性や学力を身に着ける。	A					
		受講ガイダンスや進路講座等を通じて、生徒一人ひとりの進路意欲の涵養を図る。	A					
卒業生年次	・自他を尊重する力の育成	生徒と教員の信頼関係を強固にして話し合える環境づくりをする。	A	A	A	今後も、生徒と教員の信頼関係を強固にしつつ、生徒に対し、授業規律の徹底を図ることや、ルール及びマナーを守ることの必要性を、全ての教育活動をとおして伝え、社会の一員であることを自覚させていく必要がある。 また、家庭・地域連携を通して、生徒一人ひとりの希望進路の実現を具現化していく必要がある。	A	○卒業式に参加して見違えるほど成長した姿を見ることができた。 ○3年間の学びや学校生活を通して、様々な課題に向き合う力を身に付け、進路の実現や社会貢献への姿勢も身に付けることができた。
		生徒が授業に集中して臨めるように、授業規律の徹底を図る。	A					
	・社会人として適切な言動ができる生徒の育成	ルールやマナーを守ることの必要性を全ての教育活動をとおして伝え、社会の一員であることを自覚させる。	A	A	A			
		敬語を伝えることは社会人としてのマナーであることを伝える。	A					
		様々な問題や悩みを抱えた生徒と十分に話し合える環境づくりをする。	A					
		進路関係の説明会をとおして、生徒一人ひとりの進路意欲の涵養を図る。	A					

## 自己評価及び学校関係者評価の評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座出席率の向上と単位修得率向上を目指した細やかな指導の充実及び授業改善と評価の充実（「主体的な学び」の実現と「振り返り」の充実（ICTの効果的な活用と生徒の情報活用能力の向上、観点別評価の充実と評価と指導の一体化等））</li> <li>・校内の御路指導体制の充実と生徒のきめ細やかな御路指導の推進を図るため、来年度「キャリア支援」に関する分掌を立ち上げ、卒業生年次生への細やかな御路指導の充実をはじめキャリアに関する学校行事を通して自ら律する心の醸成を図る。また、生徒面談の充実を図り、上級学校へのオープンキャンパスへの参加や応募前職場見学の実施等、充実させることによりキャリア支援を充実させる。</li> <li>・「総合的な探究の時間」における地域との更なる連携・協働及び持続可能な取組となるための工夫、「ホームルーム活動」を含めた年間御路指導計画の確立と受講ガイダンスの充実</li> <li>・講座受講による単位認定を更に図るため高大連携事業の推進・大学見学会、大学教授等招聘懇話会の充実（福岡県立大学・九州女子大学（短大含む）・九州共立大学・西日本工業大学）</li> <li>・本校教育活動の積極的な広報活動の推進（学校ホームページ及び公式Instagram、公式YouTubeの充実と更新、各種広報物の効果的な作成・配布・掲示等、効果的な説明会等の実施）</li> <li>・組織的かつ限時的な情報共有とSC、SSW、訪問相談員等外部専門家との組織的な連携及び柔軟な実施・人権が尊重される学校・学校づくりの推進及び人権・同和教育推進体制の継承（自他の尊重、効果的な人権学習、人権・同和教育推進委員会の定期的開催及び校内研修会等の実施等）</li> <li>・校内職員研修会の企画・運営及び各種研修会への積極的参加の促進・教育資源の積極的活用及び発掘（地域人材、公共施設、立地環境、保護者教師会、同窓会等）</li> <li>・学校行事や保護者教師会等の活動内容については、生徒会や保護者等と共に考える機会を設け、行事の在り方・実施について継続して検討していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今年度地域と連携した行事が開催され、定着しつつある。今後更なる地域との連携を通じた学校活性化に期待するところである。</li> </ul>
--	---

## 評価項目以外のものに関する意見